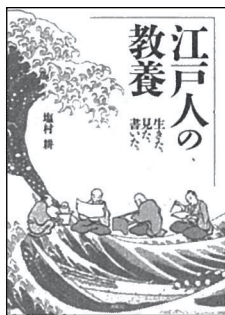


江戸人の教養

塩村 耕著

愛知県西尾市に8万冊の古文書を蔵する岩瀬文庫がある。実業家、岩瀬弥助が明治期に開設した私立図書館がもとになっている。本書は蔵書の調査とデータベース作りを担った名古屋大学教授が、古文書の世界をわかりやすく読み解いたものだ。

見開き1話で100余話を収録している。「正しい付度^{そんたて}」「網元の一代記」「落語『黄金餅』論」「ロクロ首の見世物^{みせもの}」「百五十五歳の老人」「職場はかくあらまほし」「人間と見栄^{みえ}」「銭湯業界の広報本」などのタイトルが並ぶ。



古文書が伝える鋭い観察眼

奇書もあれば西鶴が書き残したのもある。個人的な手紙も残されている。それらをテーマごとに分類し、さわりを紹介していくのだが、江戸時代を生きた人々の観察眼の鋭さや好奇心の行方が見て取れる。

江戸の町人による安政地震の記録が「後昔安全録^{あとむかしあんぜんろく}」に収録されている。「みしみしと音して、頭の上へ家潰れかかり候まゝ、取りあえず片手を延ばし請け留め候。……新平は驚き泣き出し候まゝ」と生々しい描写が印象的だ。

著者によれば、日本は大量の古典籍を持つ古書大国だ。平和で文化的な江戸時代が長く続いたのと、高い識字率が幸いした。最近では各地でそのデータベース化が進んでいる。古文書の世界が身近になってきた。(水曜社

・2000円)